退したことにより、

女性

(母親)

ったことが分かります。

(図 4)

ま

に大きな負担がかかる結果とな

といったいわゆる福祉機能が減

家族の持つ「家事・育児・介護」

題であり、 の家事・

核家族化が進んだ結果

## 男女共同 参 画 会 関 する 調 查 結

果

その調査結果の一部を紹介します。今年3月に「男女共同参画社会に関する安曇野市民意識調査」を実施しました

市では、

が互いに認め合い、 る予定です。 同参画社会の実現を目指し、 きと暮らすことができる男女共 がら家庭・職場・地域で生き生 市男女共同参画計画」 られるものです。 計画策定にあたって、 今年度中に「安曇野 この計画は、 支え合いな を策定す 市民の 男女 作

今年3月に「男女共同参画社会 皆さんの考え方を把握するため に関する市民意識調査」 しました。 を実施

現在、 社会だと思いますか? 世の 中は男女平等な

等でない」という意識を持って 等である」と感じている人は %と少なく、 ます。 男女の平等感については、 (図 1 ) 4人に3人は「平 坖 2 2

平等でないと思う分野は?

性別によって役割を固定する

ものの、 ます。 は、 改革が急務であることが分かり 日常社会生活では、「職場」の り」「職場」が圧倒的に多く、 「平等でない」 「社会通念・ 女性の社会進出は進んだ 「社会通念・慣行 慣習・しきた とする分野に

男女の平等感(図1)

無回答 2.4% 平等である 「社会の男女平等感」 (総数=男性589、女性698) 22.1% 20 40 60 80 100 平等ではない 女性 75.5% 平等ではない 84 2

男女別

きたり」 場」での女性の立場が確立して いないように思われます。 的なものを背景に、 (図 2

「仕方がない」という、い%で最も多くなっていますが、りょしくない」が4 いだが肯定的な意識の人も3%「仕方がない」という、あいま 考え方をどう思いますか ?

対する人も1%とそれほど多く と少なくありません。 「平等ではない」と感じる分野(図2) 【複数回答】(総数=男性410、女性587) 20 40 60 80 100

■男性 ■女性 学校教育 法律や制度

社会通念・慣行

「頭では分かっているが 明確に反

ています。(図3) 残っている」という状況を表し残っている」という状況を表し 男女別

(総数=男性589、女性702) 賛成である 仕方がない と思う 好ましくない 40. 9

反対である

男女の役割固定に対して(図3) 無回答 2.2% 賛成である 「男女の役割固定」に対する考え方 8.8% 反対である 13.7% 10 20 30 40 50 ■男性 ■女件 仕方がない と思う 35.0% あまり 好ましくない 40.4%

今回の紹介した調査 報告書の全文は、各 総合支所地域支援課 または市ホームペー

20 40 60

■男性

女性が働く上での障害【複数回答】(図4)

17.5

男性の家事・育児・介護へのかかわりを

その他 2.8

無回答 4.3

老人ホーム・

ホームヘルパー 6.5%

兄弟姉妹~

息子の妻

1.0%

息子

1.3%

娘の夫 0.1%

その他の親戚

介護保険施設

16.6%

10

20

30

無回答

3.2%

配偶者 50.7%

その他

1.9%

進めていくために【複数回答】(図5)

育児の分担

家族の介護

待遇の格差

家事の分担

仕事の内容

慣習 託児施設の不足

その他 3.7

無回答 4.3

男女の役割分担意識を解消するための 啓発活動を充実すること

家事などは男女で分担するのが当たり前 ということを子どものころから教育すること

男性の料理教室等、男性を対象とした 学習や訓練の機会を増やすこと

男性の仕事中心の生き方、考え方を改めること

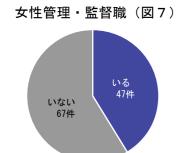
男性が家事等をしやすいよう家族や社会、地域が協力すること

労働時間短縮や各種休暇制度を普及させること

(図6)

誰に介護してもらいたいか

ジでご覧いただけます。 ■お問い合わせ 総務部人権尊重課 (Tel 71.2000)



わりを進めるため必要なことは? 男性の家事・育児・介護への かか

誰に見てもらいたいですから自分が介護されるとしたら、

ですか?

男性に「配偶者」が圧倒的に多

いことが分かります。

(図 6)

えられます。

男女別にみると、

障害となっていることは?

女性が働く上で

児の分担」が最も多く、

「家事

か

女性が働く上での障害は

育

族の介護」などが続いて多くな

「託児施設の不足」

家

っています。

いずれも家庭内で

育児・介護の分担の問

える人が多 ゆとりの確保が重要であると考 意識の啓発と、 ること」 ことを子どものころから教育す 分担するのが、 としては、 を進めて れています。 かわりが、 した。 男性の家事 が最も多く、 いくために必要なこと (図 5) いという結果になり 「家事などは男女で これらのかかわり まだ少ないとい 育児・ 当たり前という 分担するための 介護への 分担する ゎ

として、 か えられますが、 自分のことを理解し、 った意識や現実も要因として考 介護を頼める人がいない」とい 感が大きいことが要因として考 くれている」という期待・安心 ます。これは、配偶者が「最も 「配偶者」に介護してもらい けたくない」「配偶者以外に という人が半数程度占めてい 自分に介護が必要になったら 「配偶者以外に迷惑を 核家族化を背景 心配して Ť:

事業者への調査

平等でないと思う分野は?

雇用の安定の面で男女格 社員に女性が多い状 女性の管

٤

況で、 理 • 差が存在しています。 に配属が進んでいます。 男女別に従業員の状況をみる 監督職は4割以上の事業所 図 7

広報あづみの

50代~70代 744人(56%)

杳

②調査方法

③調査期間

④回収(率)

①調査対象 無作為抽出による18歳以上の市民

平成19年3月6日~30日

市民 1,335人 (44.5%)

事業所 114社 (57%)

無回答 18人 (1.3%)

男性 601人 (45%)

女性 716人 (54%)

⑥主な回答者年齢 30代~40代 351人(26%)

3,000人、事業所200社 郵送による調査票配布・回収